

マタイ受難曲第 78 曲に、このような言葉がありました。

「不安に満ちた良心」

わたしたちの心には、良心と呼ばれるものがあって、それゆえに、心が痛むことがあります。

わたしたちは、良心を押し殺して生きる、ということがあります。そうして、一時的にせよ、心の痛みは、薄れて行くであります。

しかし、思いがけず重い病を得たとき、そしてまた、自分の死期を悟ったとき、あの押さえつけていたはずの良心が再び痛み始め、それは、死に対する恐れ、死に対する不安となって、わたしたちを苦しめるのです。

死に行く者にとって、もはや、つぐないをするための時間は、残されておられません。

いったい、だれが、「この不安に満ちた良心」から、救ってくれるのでしょうか？

マタイ受難曲第 48 曲のコラールで、こう歌われていました。

「あなたの恵みと愛のほうか、たえず私の中に宿る罪に比べて、はるかに大きいのです」

わたしの良心は、死を前にして、痛み、不安でおののきます。それは、わたしの中に、つぐないようのない、消し去りようのない「罪」というものが、あるからです。

しかし、「たえず私の中に宿る罪に比べて、イエスよ、あなたの恵みと愛の方が、はるかに大きいのです」とコラールは歌いました。

マタイ受難曲第 48 曲は、続けてこう歌います。

「御子は、恐れと死の責め苦によって、わたしたちをあがなって下さった」

御子イエス・キリストは、十字架の死の責め苦によって、わたしたちをあがなって下さった、ということです。

「あがなう」という言葉は、賠償金を支払って、罪をつぐなう、という意味です。

病を得て、死を眼前にしたとき、わたしたちには、もはや、自分の罪を自分でつぐなう

力も、そのための時間も、残されておられません。しかし、福音書は告げるのです。「恐れるな、子よ。御子イエスキリストは、十字架の死の責め苦によって、あなたをあがなってくださった。御子イエスキリストは、あなたの罪の身代わりとなって、十字架で死んでくださった」

マタイ受難曲第 26 曲のアリアと合唱は、こう歌っています。

「私はイエスのもとで目をさましていよう。
そうすれば、われらの罪は消えゆくのだ。
イエスの魂の苦しみが私の死をつぐない
イエスの悲しみが私を喜びで満たしてくれる
それゆえ、イエスの尊い苦悩は
我々にとって、とても苦いが
しかし、甘美なものなのだ」

イエスは、わたしのために死んでくださった。そのことを信じることができたときに、わたしたちの心に平安がやって来ます。このわたしにも、このわたしのような罪深い者にも、イエスは、こうおっしゃってくださるのです。「子よ、お前の罪は赦された。今日おまえは、わたしと共に、天国にいるであろう」

マタイ受難曲第 58 曲はこう歌います。

「愛ゆえに、我が救い主は死んでくださいました。
それは、永遠の滅びと裁きの刑罰から
私の魂を、守るためなのです」

イエスの十字架は、わたしのためです。そして、イエスの十字架は、あなたのためです。

マタイ受難曲第 75 曲は、わたしたちに向って、今日、こう呼びかけています。

Welt, geh aus, laß Jesum ein!
「世の人よ、出て行って、イエスを迎え入れなさい！」

Welt, geh aus, laß Jesum ein!
「世の人よ、出て行って、イエスを迎え入れなさい！」

わたしたちの心の中に、救い主イエスキリストを、お迎えいたしましょう。

お祈りいたしましょう。

天の父なる神さま。あなたの御子イエスキリストが、わたしたちの罪の身代わりに十字架につき、責めと苦しみを受けて死んでくださったことを、心から感謝いたします。

いま、わたしたちは心の扉を開いて、御子イエスキリストをお迎えいたします。主イエスよ、どうぞ、おいでください、わたしたちの心の中にお入りください。わたしたちの心を、罪赦された喜びと平安とで、満たしてください。

やがてわたしたちが死の床に伏す時にも、わたしたちは主イエスの十字架を仰ぎ見ます。そのとき、わたしたちの心から、恐れも、不安も、罪も、消え去ります。あなたがお与え下さる天国でのとこしえの命を目指して、心もかるく、わたしたちは進み行きます。どうかわたしたちの手を取って、みちびいてください。

主イエスキリストの御名によって、お祈りいたします。アーメン

(救世軍杉並小隊献堂 12 周年「マタイ受難曲」(抜粋) 演奏会にて。2007 年 10 月 7 日)